

## 5.2 1次独立と1次従属 | 第5章 ベクトル空間

樋口さぶろお <https://hig3.net>

龍谷大学 先端理工学部 数理・情報科学課程

線形代数☆演習 I L29(2023-07-26 Wed)

最終更新: Time-stamp: "2023-07-26 Wed 07:44 JST hig"

### 今日の目標

- ベクトルの1次結合が説明できる
- 部分空間の生成系が説明できる
- 同次連立1次方程式の生成系を求められる



## L28-Q1

## Quiz 解答: ベクトル空間の部分空間の判定

- ① ○ 次の定理の特別な場合
- ② × S1 が成立していないなど
- ③ × S2 が成立していない

## L28-Q2

## Quiz 解答: 連立 1 次方程式の解全体の集合

$V = \mathbb{R}^n = \mathbb{R}^2$  で考える.

- ①  $\det(A) = 1 \cdot 4 - 3 \cdot 2 = -2 \neq 0$ . 加藤 線形代数 定理 4-4(p.130) より,  $A$  は正則で,  $\text{rank } A = 2$ .
- ② 解は  $\boldsymbol{v} = A^{-1} \begin{bmatrix} 1 \\ 2 \end{bmatrix} = \begin{bmatrix} 1 \\ 0 \end{bmatrix}$ . 解の自由度は  $n - \text{rank } A = 0$ . 解全体の集合は 1 点のみからなる  $\{\begin{bmatrix} 1 \\ 0 \end{bmatrix}\}$ .
- ③ 解の自由度  $= n - \text{rank } A = 0$  なので, 非自明な解はない. 解は自明な解  $\boldsymbol{v} = \begin{bmatrix} 0 \\ 0 \end{bmatrix}$  のみ. 解空間は原点のみからなる  $\{\mathbf{0}\}$ .

## L28-Q3 Moodle に動画

## Quiz 解答: 連立 1 次方程式の解全体の集合

$V = \mathbb{R}^n = \mathbb{R}^2$  で考える.

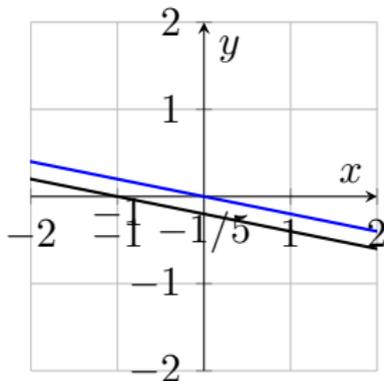
$$\textcircled{1} \text{ 拡大係数行列 } \tilde{A} = \begin{bmatrix} 2 & 10 & -2 \\ -1 & -5 & 1 \end{bmatrix} \xrightarrow{\textcircled{1} \times \frac{1}{2}, \textcircled{1} \times (+1) + \textcircled{2}} \begin{bmatrix} 1 & 5 & -1 \\ 0 & 0 & 0 \end{bmatrix}.$$

$\text{rank } A = \text{rank } \tilde{A} = 1$  より解をもつ. 解の自由度は  $n - \text{rank } A = 1$ .

解は  $\mathbf{v} = \begin{bmatrix} -1 \\ 0 \end{bmatrix} + \begin{bmatrix} -5 \\ 1 \end{bmatrix} t$  ( $t \in \mathbb{R}$ ). 解全体の集合は  $\{\begin{bmatrix} -1 \\ 0 \end{bmatrix} + \begin{bmatrix} -5 \\ 1 \end{bmatrix} t \mid t \in \mathbb{R}\}$ . (原点を通らない直線)

直線と  $y$  軸  $x = 0$  との交点は  $\begin{bmatrix} 0 \\ -\frac{1}{5} \end{bmatrix}$ , 直線と  $x$  軸  $y = 0$  との交点は  $\begin{bmatrix} -1 \\ 0 \end{bmatrix}$ .

- ②  $\text{rank } A = 1$ , 解の自由度  $n - \text{rank } A = 1$  より非自明な解をもつ. 解は  $\boldsymbol{v} = \begin{bmatrix} -5 \\ 1 \end{bmatrix} t$  ( $t \in \mathbb{R}$ ). 解空間は  $\{\begin{bmatrix} -5 \\ 1 \end{bmatrix} t | t \in \mathbb{R}\}$ . (原点を通る直線)



## L28-Q4 Moodle に動画

## TA Prob and Sol: 連立 1 次方程式の解全体の集合

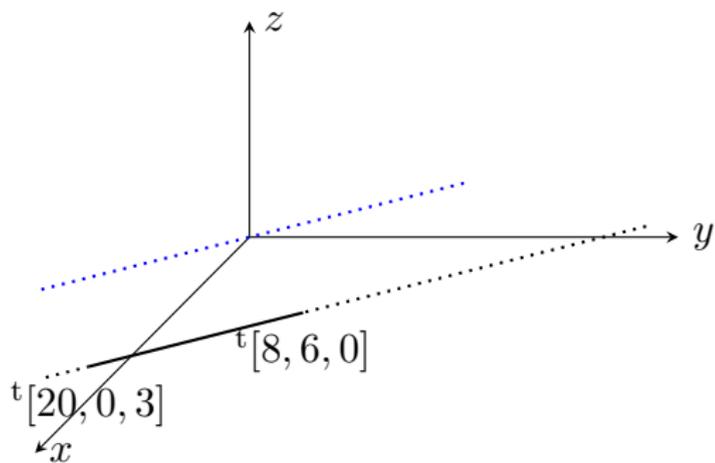
$$A = \begin{bmatrix} 1 & 3 & 2 \\ 2 & 6 & 4 \\ 3 & 10 & 8 \end{bmatrix}$$

とする.

- ① 同次連立 1 次方程式  $A\mathbf{v} = \mathbf{0}$  は非自明な解をもつか? 解の自由度を求めよう. 解空間を求めよう.
- ② 非同次連立 1 次方程式  $A\mathbf{v} = \begin{bmatrix} 26 \\ 52 \\ 84 \end{bmatrix}$  は解をもつか? もつなら解の自由度を求めよう. 解全体の集合を求め  $V = \mathbb{R}^3$  に描こう (Hint: 各平面  $x = 0, y = 0, z = 0$  との交点を求めよう). 同次の解集合もあわせて描こう.

## 略解

- ①  $A \rightarrow \cdots \rightarrow \begin{bmatrix} 1 & 0 & -4 \\ 0 & 1 & 2 \\ 0 & 0 & 0 \end{bmatrix}$  より  $\text{rank } A = 2$ . 変数の個数は  $n = 3$  より解の自由度は  $n - \text{rank } A = 3 - 2 = 1 > 0$  なので非自明な解をもつ. 解は  $\boldsymbol{v} = \begin{bmatrix} 4 \\ -2 \\ 1 \end{bmatrix} t$  ( $t \in \mathbb{R}$ ). 解空間は原点を通る直線  $W = \left\{ \begin{bmatrix} 4 \\ -2 \\ 1 \end{bmatrix} t \mid t \in \mathbb{R} \right\}$ .
- ② 拡大係数行列  $\tilde{A} = \begin{bmatrix} 1 & 3 & 2 & 26 \\ 2 & 6 & 4 & 52 \\ 3 & 10 & 8 & 84 \end{bmatrix} \rightarrow \cdots \rightarrow \begin{bmatrix} 1 & 0 & -4 & 8 \\ 0 & 1 & 2 & 6 \\ 0 & 0 & 0 & 0 \end{bmatrix}$  より  $\text{rank } \tilde{A} = 2$ .  $\text{rank } \tilde{A} = \text{rank } A$  より解をもつ. 解の自由度は  $n - \text{rank } A = 3 - 2 = 1$ . 解は  $\boldsymbol{v} = \begin{bmatrix} 8 \\ 6 \\ 0 \end{bmatrix} + \begin{bmatrix} 4 \\ -2 \\ 1 \end{bmatrix} t$  ( $t \in \mathbb{R}$ ).  
 解全体の集合は直線  $W_0 = \left\{ \begin{bmatrix} 8 \\ 6 \\ 0 \end{bmatrix} + \begin{bmatrix} 4 \\ -2 \\ 1 \end{bmatrix} t \mid t \in \mathbb{R} \right\}$ .  
 $W_0$  と  $x = 0$  との交点は,  $t = -2$  より  $\begin{bmatrix} 0 \\ 10 \\ -2 \end{bmatrix}$ , 同様に  $y = 0$  との交点は  $\begin{bmatrix} 20 \\ 0 \\ 3 \end{bmatrix}$ ,  $z = 0$  との交点は  $\begin{bmatrix} 8 \\ 6 \\ 0 \end{bmatrix}$ .  
 同次連立 1 次方程式の解空間  $W$  は, この直線  $W_0$  と平行で原点を通る直線.





## 行列式の性質を使ったいろいろな計算

加藤 線形代数 定理 2-4(p.113), 定理 2-7(p.116), 系 2-2(p.118)

### Quiz(積と転置と逆の行列式)

$A, B$  を  $n$  次の正方行列とするととき, 次を簡単化しよう.

$$AB \det(2 \cdot {}^t(A^{-1}B)(AB)^{-1})B^{-1}({}^tA)^{-1}$$

## ここまで来たよ

28 5.1 ベクトル空間と部分空間 | 第 5 章 ベクトル空間

29 5.2 1 次独立と 1 次従属 | 第 5 章 ベクトル空間

- 5.2 1 次独立と 1 次従属
- Wolfram Alpha での行列計算

## ◆ 1 次結合

定義 (1 次結合 加藤 線形代数 p.152)

$$V = \mathbb{R}^m,$$

$$\mathbf{v}_1, \dots, \mathbf{v}_n \in V,$$

$$a_1, \dots, a_n \in \mathbb{R} \text{ のとき,}$$

$a_1\mathbf{v}_1 + \dots + a_n\mathbf{v}_n$  を「 $\mathbf{v}_1, \dots, \mathbf{v}_n$  の 1 次結合 (linear combination)」という.

1 次結合 = 線形結合

## L29-Q1

## Quiz(1 次結合)

$V = \mathbb{R}^2$  のベクトルを考える.

- ①  $\mathbf{v}_1 = \begin{bmatrix} 2 \\ 1 \end{bmatrix}$ ,  $\mathbf{v}_2 = \begin{bmatrix} 0 \\ 3 \end{bmatrix}$  の, 係数  $a_1 = 3$ ,  $a_2 = 5$  による 1 次結合  $\mathbf{w}$  を求めよう.
- ② 上で求めたベクトルを  $\mathbf{w}$  を, 基本ベクトル  $\mathbf{e}_1 = \begin{bmatrix} 1 \\ 0 \end{bmatrix}$ ,  $\mathbf{e}_2 = \begin{bmatrix} 0 \\ 1 \end{bmatrix}$  の 1 次結合として書いたときの係数を求めよう.

系 (1 次結合からなる部分空間 加藤 線形代数 p.153)

$$V = \mathbb{R}^m,$$

$\mathbf{v}_1, \dots, \mathbf{v}_n \in V$  のとき,

$\mathbf{v}_1, \dots, \mathbf{v}_n$  の 1 次結合全体の集合

$$W = \{a_1\mathbf{v}_1 + \dots + a_n\mathbf{v}_n \mid a_1, \dots, a_n \in \mathbb{R}\}$$

は,  $V$  の部分空間.

証明 加藤 線形代数 定理 2-1(p.152)

## 定義 (生成された部分空間)

加藤 線形代数 例 1,2, 練習問題 1,2,3(pp.153-154)

$$V = \mathbb{R}^m,$$

$$\mathbf{v}_1, \dots, \mathbf{v}_n \in V,$$

部分空間  $W = \{a_1\mathbf{v}_1 + \dots + a_n\mathbf{v}_n \mid a_1, \dots, a_n \in \mathbb{R}\}$  のとき,

- $W = \langle \mathbf{v}_1, \dots, \mathbf{v}_n \rangle$  と書く. (初めて出てきた記号)
- $W$  を,  $\mathbf{v}_1, \dots, \mathbf{v}_n$  で生成された (generated) 部分空間という.
- $W$  を,  $\mathbf{v}_1, \dots, \mathbf{v}_n$  で張られた (spanned) 部分空間ともいう.
- ベクトルの組  $\{\mathbf{v}_1, \dots, \mathbf{v}_n\}$  は  $W$  を生成する (generate), 張る (span) という
- ベクトルの組  $\{\mathbf{v}_1, \dots, \mathbf{v}_n\}$  は  $W$  の生成系 (generating set, spanning set) であるという.

## 事実

$V = \mathbb{R}^m$  の部分空間は必ず生成系を持つ (有限生成である)

有限という用語の起源: 上の定義より生成系は有限個のベクトルからなる

## 生成された部分空間の例

原点を通る直線 線形代数☆演習 I(2023)L04 は,  $V = \mathbb{R}^m$  の部分空間.

$$\{at | t \in \mathbb{R}\}$$

原点を通る平面 線形代数☆演習 I(2023)L05 は,  $V = \mathbb{R}^m$  の部分空間.

$$\{at + bs | s, t \in \mathbb{R}\}$$

原点を通る  $\Leftrightarrow$  パラメタ表示  $x = at + c$  で  $c = \mathbf{0}$ .

## L29-Q2

## Quiz(部分空間の生成系)

$V = \mathbb{R}^3$  の部分集合  $W = \left\{ \begin{bmatrix} x_1 \\ x_2 \\ x_3 \end{bmatrix} \mid x_2 = 0 \right\}$  を考える.

- 1  $W$  が  $V$  の部分空間であることを示そう.
- 2  $W$  の生成系を見つけよう.

## 解空間の生成系の見つけ方

### 解空間の生成系

$V = \mathbb{R}^m$ : ベクトル空間 のとき,

与えられた  $n$  元同次連立 1 次方程式の解空間  $W \subset V$  の生成系 (の 1 つ) を得るには,

同次連立 1 次方程式として解いて 加藤 線形代数 例題 1(p.62), 任意定数にかかるベクトルを集めてくればよい.

自明な解しかないとき,  $W = \{\mathbf{0}\}$  なので生成系は空集合.

## L29-Q3

## Quiz(同次連立 1 次方程式の解空間の生成系)

空間のベクトル  $\boldsymbol{x} = \begin{bmatrix} x \\ y \\ z \end{bmatrix} \in V = \mathbb{R}^3$  を未知数とする同次連立 1 次方程式  $A\boldsymbol{x} = \mathbf{0}$  を考える. ただし,  $A = \begin{bmatrix} 1 & -3 & -2 \\ 2 & -6 & -4 \\ 2 & -6 & -4 \end{bmatrix}$ .

- ① 解空間  $W$  を求めよう.
- ② 解空間  $W$  の生成系をひとつ答えよう.
- ③ 解空間  $W$  を描こう.

mobius K5.2.30 加藤 線形代数 例題 1(p.62)



## ここまで来たよ

- 28 5.1 ベクトル空間と部分空間 | 第5章 ベクトル空間
  
- 29 5.2 1次独立と1次従属 | 第5章 ベクトル空間
  - 5.2 1次独立と1次従属
  - Wolfram Alpha での行列計算

## Wolfram Alpha での行列の計算 I

<https://www.wolframalpha.com> 無料部分あり

<https://www.wolframalpha.com/examples/Matrices.html>



Maple や C と文法が違う

行列

$$\begin{bmatrix} 1 & 2 \\ 3 & 4 \end{bmatrix}, \begin{bmatrix} 5 \\ 6 \end{bmatrix}$$

$$\{\{1, 2\}, \{3, 4\}\} \\ \{5, 6\}$$

Wolfram Alpha では変数代入できない (電卓的) ので毎回入力してください。

行列と行列, 行列とベクトルの積はピリオド

$$\begin{bmatrix} 1 & 2 \\ 3 & 4 \end{bmatrix} \begin{bmatrix} 5 & 6 \\ 7 & 8 \end{bmatrix} \\ \begin{bmatrix} 1 & 2 \\ 3 & 4 \end{bmatrix} \begin{bmatrix} 5 \\ 6 \end{bmatrix}$$

$$\{\{1, 2\}, \{3, 4\}\} \cdot \{\{5, 6\}, \{7, 8\}\} \\ \{\{1, 2\}, \{3, 4\}\} \cdot \{5, 6\}$$

## Wolfram Alpha での行列の計算 II

行列のべき乗, 逆行列, 行列式

$$\begin{aligned} & \begin{bmatrix} 1 & 2 \\ 3 & 4 \end{bmatrix}^5 \\ & \begin{bmatrix} 1 & 2 \\ 3 & 4 \end{bmatrix}^{-1} \\ & \text{rank} \begin{bmatrix} 1 & 2 \\ 3 & 4 \end{bmatrix} \\ & \det \begin{bmatrix} 1 & 2 \\ 3 & 4 \end{bmatrix} \end{aligned}$$

```

{{1,2},{3,4}}^5
Inverse[{{1,2},{3,4}}]
Rank[{{1,2},{3,4}}]
Det[{{1,2},{3,4}}]
  
```

行簡約階段形 `ReducedRowEchelonForm`

$$\begin{bmatrix} 1 & 2 \\ 2 & 4 \end{bmatrix} \rightarrow \begin{bmatrix} 1 & 2 \\ 0 & 0 \end{bmatrix}$$

```

RREF[{{1,2},{2,4}}]
  
```

## 連絡

- trialL29 は (Mobius K5 で練習の後に) Mobius で. 5 章の Mobius はこれだけ. L29 授業後, 期限 2023-08-02 水 20:00
- trialL30 は L01-L29 に対する (全学とは別の) アンケートと作文 (Moodle). L29 授業後, 期限 2023-08-02 水 20:00
- L30 は, あるとしても任意視聴動画で, trialL30 と関係しない
- 2023-08-02 水 1 任意参加小テスト 線形代数☆演習 I(2023)L28
- 2023-08-02 水 20:00 までの すべての Mobius 課題の取組状況を科目の成績に算入します
- 全学授業アンケート
- 教科書は (少なくとも) 卒業まで売らないで
- 2024 年度前期 確率統計 I でまたお会いしましょう (たぶん)